

「平成21年度グローバルCOEプログラム委員会（第1回）」議事概要

1. 日 時：平成20年12月18日（木）15：00～17：00
2. 場 所：ホテルニューオータニ edo ROOM（エドルーム）
3. 出席者：（委 員）安西委員、小野委員、金澤委員、佐々木（雄）委員、鈴木（厚）委員、鈴木（基）委員、鈴木委員、立本委員、田中（隆）委員、田中（英）委員、玉尾委員、田村委員、戸張委員、鳥居委員、納谷委員、野依委員、福山委員、松本委員
（文部科学省）義本大学振興課長、今泉大学改革推進室長
（事務局）小林理事、中原監事、宮嶌審議役、渡邊研究事業部長、鈴木研究事業課長、千々松研究事業課長代理

4. 議事概要

- ・議事に先立ち、審査・評価の実施主体である独立行政法人日本学術振興会の小野理事長より挨拶があった。
- ・平成21年度グローバルCOEプログラム委員会委員名簿[資料1]により委員が紹介された。

(1) 委員長の選出等について

- ・互選により、野依委員が委員長に選出された。
- ・野依委員長より、副委員長には、安西委員が指名された。

(2) 審議内容等の取扱いについて

- ・事務局より委員会の審議内容等の取扱いについて[資料2]に基づき説明があり、審査（人選を含む）に関する調査審議を除き、会議、会議資料について原則公開とする旨の説明があった。

(3) 委員会の運営等について

- ・グローバルCOEプログラム委員会規程[資料3]、グローバルCOEプログラム委員会組織イメージ[資料4]、自己の関係する大学の事案に関する取扱いについて[資料5]について、事務局より説明があった。
- ・平成21年度グローバルCOEプログラム審査スケジュール（案）[資料6]について、事務局より説明があり、了承された。

(4) 平成21年度公募要領・審査要項について

- ・今泉大学改革推進室長から、平成21年度グローバルCOEプログラム公募要領（案）[資料7]について説明があり、更に、事務局より「グローバルCOEプログラム」審査要項（案）[資料8]、平成21年度「グローバルCOEプログラム」計画調書（案）[資料9]、平成21年度グローバルCOEプログラム計画調書 作成・記入要領（案）[資料10]、平成21年度グローバルCOEプログラム計画調書作成要領（外国人レフェリー用）（案）[資料11]、「グローバルCOEプログラム」審査基準（案）[資料12]、「グローバルCOEプログラム」ヒアリング実施要領（案）[資料13]について説明があり、質疑応答が行われた。本日の意見を踏まえ、資料の一部について修正することとなった。主な意見は以下のとおり。

（主な意見）

- 平成21年度の公募対象分野である「学際、複合、新領域」分野は、対象とする領域の幅が広い。しかしながら、公募要領（案）等には、「分野の例示」として5つの領域（医学、生活科学、環境学、エネルギー科学、地域研究）を挙げており、この例示によって、申請される拠点形成計画をこれらの領域に縛ってしまう可能性がある。この例示の記載内容や記載の必要性について、検討していただきたい。

- 「学際、複合、新領域」分野の審査においては、新しい学問領域の創成をねらった拠点形成計画を評価するのか、それを支える人材を養成していくことを主眼とするのか、あるいは様々な領域から業績がある研究者を集めた拠点形成計画を評価するのかなど、目指す方向性、審査の在り方をきちんと議論する必要があるのではないか。
- 21世紀 COE プログラムの事後評価の際に、「学際、複合、新領域」分野では、自然科学系と文科系とが融合した本来の「学際、複合、新領域」分野の拠点は、まさに新しい分野であることから評価が困難であった。「学際、複合、新領域」といっても、自然科学系と文科系との連携ではなく、自然科学系同士の連携の採択が多いのではないかと強い意見があった。
- 申請者に対し「学際、複合、新領域」の定義を明確に示し、申請された拠点形成計画が本来の「学際、複合、新領域」に含まれる拠点形成計画であるかどうかを最初の審査項目にすれば、審査対象を一定範囲に想定できるのではないかと。
- 科学研究費補助金の分科細目のうち、「複合」に該当するものが、グローバル COE プログラムの「学際、複合、新領域」分野に申請してくる傾向がある。実際に審査する際に困るのは、「学際、複合、新領域」分野以外のプロパー分野に申請することが可能な拠点形成計画であるにもかかわらず、「学際、複合、新領域」分野に申請するケースが見られることだ。そういった場合、申請された拠点形成計画の狙いや将来性、発展性を、きめ細かく審査するしかないと考えている。
- 学問的必然性から「学際、複合、新領域」分野ができるべきであって、財政的必然性で学問の融合がなされるべきではないと思っており、その点をしっかり確認していただきたい。
- 平成19年度及び平成20年度の公募では、4つのプロパー分野に「学際、複合、新領域」を加えた計5分野を募集対象としていた。「分野の例示」は、複数ある募集対象分野の区別を明確にするためのものと理解している。それに対して、平成21年度の公募では、「学際、複合、新領域」1分野のみの募集となる。平成20年度までの「学際、複合、新領域」の「分野の例示」を、平成21年度の公募においてもそのまま継承してよいのか、検討する必要がある。
- 例えば、生命科学を主とする複合分野については、すでに「生命科学」分野として平成19年度に募集を終了したと考えるのかどうか議論する必要がある。
- 公募要領（案）等において、「学際、複合、新領域」の「分野の例示」を削除すれば、全学問領域の拠点形成計画の敗者復活戦になり、混乱するおそれがある。したがって、「学際、複合、新領域」の「分野の例示」は、プロパー8分野のうち一つを主とするものでない、例えば、生命科学と人文科学など、異なるプロパー分野にまたがる大きな複合・新領域であることが分かるような表現とするよう工夫すべきである。
- 審査方針（案）I-1-④について。選定する拠点の条件として、将来的に新しい研究科及び専攻科を再編するなど組織改革及びカリキュラム改革につながるような計画を有することが求められているが、それに向けた努力はできたとしても、実際にそれを行うことは実に困難である。各大学には、本プログラムへの採択が、将来的に大学の改革や発展に繋がることを意識して申請していただきたいという事業者側の意図が的確に伝わるよう配慮すべきである。

(5) 平成19年度採択拠点中間評価について

- ・事務局から、グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点中間評価日程(案)[資料14]、グローバルCOEプログラム評価要項(案)[資料15]、グローバルCOEプログラム中間評価用進捗状況報告書等様式(案)[資料16]、グローバルCOEプログラム中間評価用進捗状況報告書等作成・記入要領(案)[資料17]、グローバルCOEプログラム中間評価書面評価書(案)[資料18]、グローバルCOEプログラム中間評価結果(様式)(案)[資料19]、グローバルCOEプログラム中間評価結果ヒアリング実施要領・評価書(案)[資料20]、グローバルCOEプログラム中間評価現地調査実施要領・報告書(案)[資料21]、グローバルCOEプログラム中間評価学長同行の再ヒアリング実施要領・評価書(案)[資料22]について説明があった。
- ・ワーキング・グループ座長の立本委員から、平成19年度採択校拠点中間評価について説明があり、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。

(主な意見)

- 平成21年度の公募要領(案)では、中間評価の結果に応じて、補助金の大幅減額や打ち切りもあり得ることが明記されており、その点で平成20年度までの公募と比べると内容が厳しくなっているが、評価の低い拠点への補助金を減額し、そこで生まれた財源を使って、逆に著しく成果をあげ高い評価を受けた拠点への補助金を増額できるのか。増額の可能性についても、公募要領等に記載していただきたい。

(6) その他

- ・グローバルCOEプログラム委員会専門委員の選考について[資料24]、平成21年度グローバルCOEプログラム委員会分野別審査・評価部会構成(案)[資料25]、グローバルCOEプログラムレフェリーの選考について[資料26]について、事務局より説明があり、質疑応答が行われ、了承された。また、分野別審査・評価部会への分属委員等の指名が委員長より行われた。
- ・最後に、事業の実施主体である文部科学省の義本大学振興課長より挨拶があった。